２０１６年度②

刑　　法

（全　１　ページ）

注 意 事 項

1．試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2．解答用紙・下書き用紙は、この冊子の中に折り込んであります。
3．解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
4．解答は指定された範囲に記載すること。「書き終わり」をこえて記載した場合は、採点をしないことがあります。
5．試験終了後、問題冊子・下書き用紙は持ち帰りなさい。

刑　法②

次の問題〔１〕・〔２〕のうち１問を選択して解答しなさい。

〔１〕 以下の事例における甲の罪責を論じなさい（特別法違反の点は除く）。

甲は、従兄にあたるＸ男から、密通相手のＹ女との関係を続けるために、Ｙの夫Ａを殺害したいという意図を示された。その後、殺害方法につき何度も相談を持ちかけられているうちに、これをあしらいかね、Ｘから青酸カリを入手するように依頼を受けるや、Ａ殺害に使用するつもりであることを認識しながら、これを承諾し、知人のＢから青酸カリを譲り受けたうえＸに渡した。しかし、その後、ＸおよびＹは、その青酸カリを使用する機会をうかがっていたが、結局、Ａの殺害を断念した。

〔２〕 以下の事例において（１）および（２）の場合を比較しつつ、甲の罪責を論じなさい（特別法違反の点は除く）。

Ａは、Ｂ銀行において、自己の債権者であるＣの銀行口座に債務履行のため50万円を振込送金しようと考えたが、ＡＴＭで送金する際に口座番号を間違え、Ｄ銀行にある甲の普通預金口座に50万円の振込送金をしてしまった。翌日、Ｄ銀行のＡＴＭで預金通帳に記帳をした甲は、身に覚えのない50万円の送金があったことに気付いたが、Ｄ銀行の側にこれを告知することなく、その窓口の行員Ｅに対して自己名義での50万円の払戻し請求書を示し、50万円の払戻しを受けた。

（１） 甲が、自己が他に負っている債務の弁済のためにこの50万円を費消する意図で払戻しを受けた場合

（２） 甲が、Ａを知っていることから、この50万円をＡに現金で返してやろうという意図で払戻しを受けた場合